

参加者：55名  
参加施設：32施設  
オンライン開催でしたが、ブロックを超えて多数の方々にご参加していただきました。

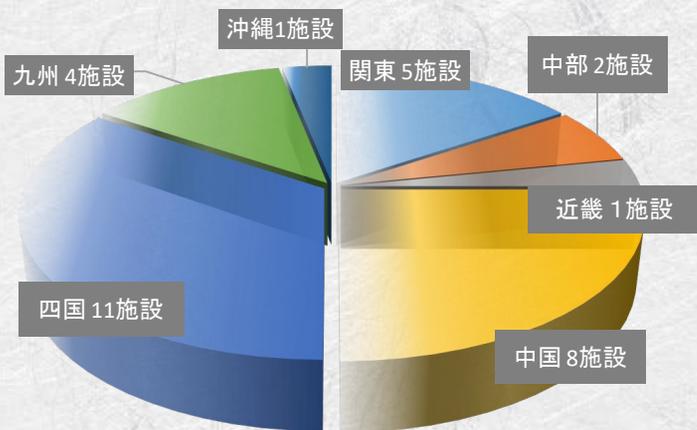
# HCTCセミナー

令和4年10月22日(土)

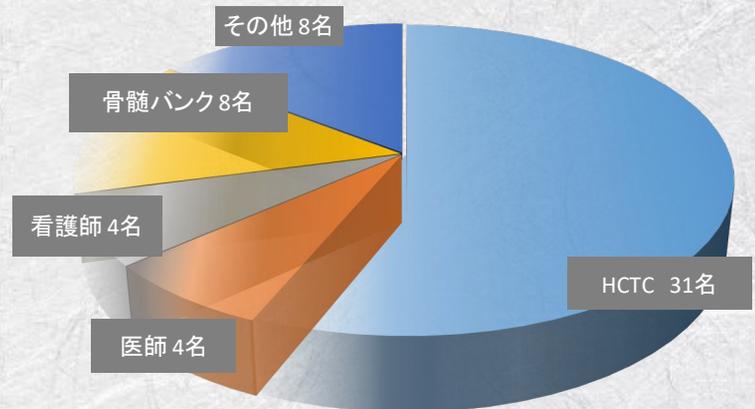
13時～

## ～ HCTCに望まれること～

### 参加施設



### 参加職種



## 第1部

### 事例検討会 移植ソースを考える

～血縁ドナーコーディネイト導入に困難を感じた事例～

事例提供者 米子医療センターHCTC 木村聡己様  
ファシリテーター 東京医科大学病院 HCTC 佐藤孝子様

今年は各施設のHCTCや医師など、36名の方にご参加いただき、血縁ドナーコーディネイト導入時の患者への関わりについて検討しました。どの施設でも経験したことがある事例であり、参加者自身の経験と重ね合わせながらディスカッションを行うことができました。事例を通して、HCTCとして患者さんの心理や思考、価値観を理解したうえで、患者自身が自分の問題を解決できるように支援することの大切さを学ぶことができました。

他施設の方とグループワークを行うことで、様々な意見を伺うことができ、また、医師の参加もあったことで、HCTCの思いに偏らないディスカッションができたこと、参加者の皆様からご好評をいただきました。

血縁ドナーコーディネイト導入時の支援についての学びを深めることができ、大変有意義な時間となりました。

## 第2部

### 当院移植チームにおけるHCTCの状況と期待

静岡県立静岡がんセンター血液・幹細胞移植科  
池田宇次先生

---

静岡がんセンターにおけるHCTCの誕生から、HCTC業務の実際についてご紹介いただきました。また、今回のテーマでもあるHCTCに望まれることとして移植チームのコメディカルから見たHCTCの存在についてのコメントも伺うことができ、私達HCTCにとって励みの言葉となりました。池田先生が仰せられていた「要するにHCTCとはスーパーマンであれ…」「コーディネートはお見合いであり、HCTCは仲人である」とのお言葉が大変味わい深く、参加者から大きな共感を得ました。

### 造血幹細胞移植において心理職は何をしているのか

倉敷中央病院 臨床心理士/公認心理師  
今村隆先生

---

移植を受ける患者さん及び血縁ドナーの方の心理的負担について、そしてその心理的負担に対して心理職がどのような介入を行っているのか、架空の症例を通して具体的にお話して下さいました。患者さん及びドナーの方への支援においては、心理学的な観点と血液学的な観点の両輪で補完しながら支援を行うことが必要であり、HCTCはその支援が可能な存在であることを再認識することができました。

### いのちの架け橋 ～連携を深めるために～

公益財団法人 日本骨髄バンク 中四国地区代  
松浦裕子先生

---

移植における重要な架け橋となっている骨髄バンクという立場から、私達HCTCとの連携の現状とこれから目指していきたい連携の形についてのお話を伺いました。

JMDPコーディネーターの方、地区事務局の方から、連携(協働)について明日からの業務に直ぐに取り入れることができる具体的な声を聞くことができました。

骨髄バンクの方と、このような形で意見交換ができる場は大変貴重であり、今後も定期的  
に開催することで更に連携を深めていきたいと思ひます。

## 交流会

---

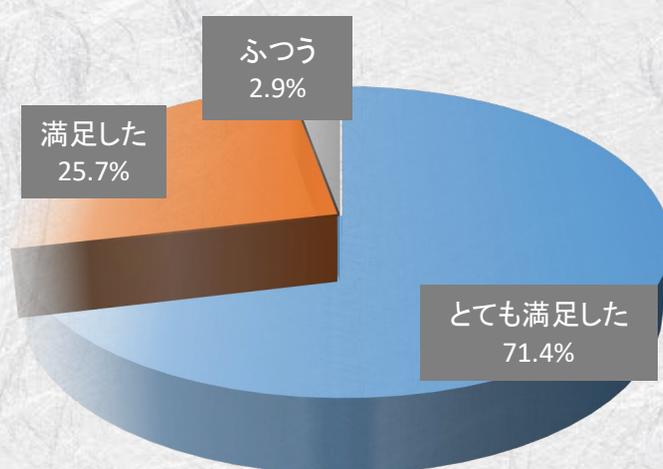
セミナーの最後に25名のHCTCの方にご参加いただき、交流会を開催しました。コロナ禍で、他施設の方との交流の場がなかなか持てないなか、顔を見せ合って言葉を交わすことで、繋がりを深める場となり、明日からの活力を得ることができたとのことのお言葉をいただくことができました。

今後も、様々な思いを共有し、視野を広げる機会に繋がるようこのような場を設けていきたいと思えます。

## 最後に…

---

今回の研修の満足度



事例提供及びファシリテーターを務めていただいたHCTCの皆様、講師を務めていただいた先生方、参加していただいた皆様、ありがとうございました。次回のセミナーも、ご都合がよろしければご参加いただけますと幸いです。

造血幹細胞移植推進拠点病院  
愛媛県立中央病院 一同